

福岡県スクールソーシャルワーカー協会
第5回記念大会

チームを育むソーシャルワーク



基調講演

「福岡県におけるチーム学校推進事業と
スクールソーシャルワーカーへの期待」

講師：相原 康人（福岡県教育庁教育振興部義務教育課 課長）

座長：門田 光司（本協会 会長／久留米大学 教授）



大会シンポジウム

「子よもの居場所づくりとソーシャルワーク」

シンポジスト：大 橋 由美子（グリーンコープ生活協同組合ふくおか 理事長）

馬男木 幸 子（福岡市社会福祉協議会地域福祉課 課長）

梶 谷 優 子（本協会 運営委員／福岡県教育委員会 SSW・SV）

座 長：寺 田 千栄子（本協会 運営委員／北九州市立大学 講師）



2016.7.02(SAT)

北九州市立大学 北方キャンパス

北九州市小倉南区北方4丁目2番1号



特別研修A

「トークセッション スクールソーシャルワーカーが伴走した卒業生から学ぶ」

講師：Aさん

講師：高口 恵美（本協会運営委員／福岡県教育委員会 SSW・SV）

コーディネーター：奥村 賢一（本協会 副会長／福岡県立大学 准教授）

今回スクールソーシャルワーカー（以下、SSW）が過去に支援していた当事者の方が、当時の思い出という貴重な話を聴かせていただくことができてとても勉強になりました。

今回話をしてくださったAさんは「不登校」ということでの支援でしたが、その話の中で私が一番印象に残ったことは「学校に行ったらときは無理して普通を装っていた」という言葉でした。私も学校現場で働き始めて少しずつではありますが様々なことで困っている子どもたちと関わらせていただいています。その中でもAさんと同じように学校に行くのは嫌がるけれど来たら友達と楽しそうに過ごしている子どもが数人います。それに対し私も含め教職員は「何であんなに楽しそうなのに学校に来ないのだろうか」と不思議に感じており、その子に対してはアプローチをすればいいのが悩んでいたのですが、Aさんの話を聴いて「実はあの子も無理をしているのではないか」と考えることができました。SSWとして働く上で一方向からだけ

はなく多方向から子どもを観ることの大切さは十分に理解してはいたのですが、全く実践ができていない自分に気づくことができませんでした。今後困っている子どもと関わりを持っていく中で子ども達の言動一つひとつを意識して捉えていくことは当然ですが、今現在の自分の行動に対しては常に意識し、私自身の考えに偏りが無いのか、きちんと「SSW」という立場から子どもたちを観ることができているのかな等を振り返りながら支援に臨もう！という新たな意気込みができました。

今回あくまんの人の立ちの前で緊張されたが私も堂々と自身の過去を話されていたAさんを見て、私自身も現在支援している子どもたちが将来大人になり子ども時代を振り返った際、「あの時あの選択をしてよかった」と思えることができるように「現在」だけではなく先を見据えよう支援をしていこうという励みになりました。今回は貴重な研修に参加させていただきありがとうございました。

正会員 宮城 亜由己



特別研修B

「震災後に求められるスクールソーシャルワーカーの役割」

講師：土屋 佳子（立教大学兼任講師／福島県等 SSW・SV）



特別研修Bでの土屋先生の講演では、貴重な東日本大震災後の生々しい現実、被災地でのSSWの重要性、今後の役割を拝聴させて頂き、大変有意義な時間となりました。

被災経験のない私にとって災害とは鈍感でよこか他人事だっただけですが、改めて福祉の視点でみると、当時のTV報道・ネットの情報では「家族の絆が深まり、近隣同士皆で助け合い、思いやりの精神復活！」と美化された正の部分しか見えてなかったのですが、その裏では、震災前よりも深刻化する児童虐待、ネグレクト、非行や住民間での障害児・者への偏見、差別等、負の部分を知り、大きな衝撃を受けました。想像以上の被災地の生活場面で子どもたち、保護者へのメンタルケア、管

理職・教師へ向けてのグループワーク、研修会、それぞれの居場所づくり等あらゆる問題を解決に導き支援へと日夜奮闘された土屋先生に畏敬の念と感動を覚えます。

先生の被災地支援で見えてきたものから平時の大切さ、非日常が子どもたち、延いては大人をも緊張状態におき、平静を失い心が壊れていく、そこは心のケア、環境改善、生活を立て直し、平時へと支援していくSSWは災害時に限らず、大きな存在であり、常にアウトリーチで地域を巻き込み多岐にネットワークを拡

げ、対応していくことが大切だとおっしゃいました。SSWは、一人専門職です。個々のSSWが気の遠くなるような難題にひとつひとつ丁寧に対応、支援していくことが次代のSSWの地位向上へとつながると考えます。

最後に「それぞれの人が、それぞれの場所で、それぞれができることをする。その「実践知」をつみあげることが支援につながる」という土屋先生のお言葉を深く心に刻み、SSWを目指していきたいと思います。

学生会員 長崎 淳子



基調講演

「福岡県におけるチーム学校推進事業と スクールソーシャルワーカーへの期待」

講師：相原 康人（福岡県教育庁教育振興部義務教育課 課長）
座長：門田 光司（本協会 会長／久留米大学 教授）



大会シンポジウム 「子どもの居場所づくりとソーシャルワーク」

シンポジスト：大 橋 由美子（グリーンコープ生活協同組合ふくおか 理事長）
馬 男 木 幸 子（福岡市社会福祉協議会地域福祉課 課長）
梶 谷 優 子（本協会 運営委員／福岡県教育委員会 SSW・SV）
座 長：寺 田 千栄子（本協会 運営委員／北九州市立大学 講師）

基調講演においては、「福岡県におけるチーム学校推進事業とスクールソーシャルワーカーへの期待」について、お話を聞くことが出来ました。現在、北九州市でSSWとして仕事を行う中で私たちが義務教育を受けていた頃と比較すると様々な事が複雑化・多様化してきていることを実感しています。また学校の組織・体制の現状についても現場では厳しい声を聞くこともあり、不登校・非行等に対する子どもたちへの対応に苦慮しているところです。その中で学校を中心として色々な関係機関・専門職とチームを組んで、問題を抱える子どもたち・家庭への支援をしていけることが理想で、そのような体制づくりをしていけるように今後も取り組んでいきたいと思っています。また、SSWの増員の方向についても、大変嬉しく思っています。

大会シンポジウムにおいては、「子どもの居場所づくりとソーシャルワーク」という実践事例を聞くことが出来ました。正直なところ、まだまだ現在の自分には余裕がなく、目の前にある課題に対してどのように対応し、どのように解決に導いていくのかということに必死感という感じがされました。梶谷さんのように色々な思いを「何とかしたい」「居場所をつくりたい」という働きかけから、社会福祉協議会やグリーンコープの方と連携を図り、一つの資源を創るといふ活動に感動しました。また、「地域が持っている力は、無限大」「地域が持っている力を引き出す専門職だ」これらの言葉も、心に大きく響きました。

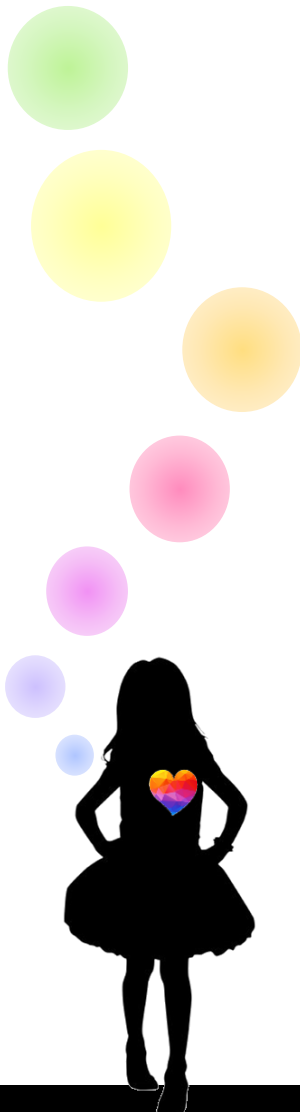
自分は無力だと思いがちですが「一人の力は、とても小さけれど沢山の方々と一つになれば大きなことが成し遂げられる」それを信じて、たくさんの人と繋がっていきたくて改めて思います。また余裕のある専門職の一員になれるように、これからは沢山の経験を積み重ねて取り組んでいきたいと思っています。第5回記念大会に参加できたことを本当に幸せに思います。ありがとうございました。

正会員 井口 奈奈

基調講演にて、「福岡県におけるチーム学校推進事業とスクールソーシャルワーカーへの期待」というテーマでお話をさせていただきました。教育を主たる機能としたフィールドのなかで、「チーム学校」として、SSWに何が求められているのかを、改めて学ぶことができませんでした。SSWは、困っていきなり悩んでいる子どもたちの最善の利益のために活動をし、子どもたちの可能性を引き出すお手伝いをされる、学校の現場で必要不可欠な存在であると実感しています。しかし、学校という文化のなかで、時に、一見するとSSWの考え方が受け入れられないように感じる場面もあるのではないかと思っています。そのような時、お話の中にあっさ「多様な個性が生かされる教育の実現」や、「希望する教育を受けることを阻む制約の克服」など、教育委員会や学校と同じ方向性を再認識・再共有すれば、「チーム学校」として、よりよい方向に進むのだからなと感じることができました。

シンポジウムでは、SSWのご経験のなかで、子どもの居場所という社会資源の必要性を見出し、それに関係機関へ発信していくことで、地域を巻き込んだ大きな動きになるという、大変勉強になる事例を紹介していただきました。私自身教育委員会で働いているため、自分の視点が、学校・教育という枠組みの中だけでの発想に陥ってしまうことがあります。子どもたちのために何が必要かを広い視点で考え、行動や発言をしていくと、メゾレベルやマクロレベルでの大きな動きになっていくのだと勉強になりました。また、活動の場である地域の強みや配慮すべき点を押さえることの必要性や、関係機関の強みを生かしていくスキルの重要性を感じました。貴重な講演・シンポジウムに参加させていただき、ありがとうございました。

賛助会員 堀川 裕美



2016年2月研修会

2016.02.13

そびあしんぐら

Yousei



テーマ：「スクールソーシャルワーカーの動き～配置型～」
講師：土井 幸治
志免町教育委員会 スクールソーシャルワーカー

Senmon



テーマ：「実践記録作成法～其の式～」
講師：奥村 賢一
福岡県スクールソーシャルワーカー協会 副会長
福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授

Kiso



テーマ：「他機関との連携について考える
～他領域ソーシャルワーカー経験者の声～」
講師：中筋 啓介
（元障害福祉サービス事業所 支援員）
福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー
荒巻 智之
（元精神科病院 PSW）
須恵町教育委員会 スクールソーシャルワーカー

YOUSEI

今回初めて研修に参加させていただきましたが、SSWの配置形態の基礎知識から事例に基づいた現場での動きまで、幅広く勉強させていただきました。SSWの様々な配置形態がある中で、それぞれのメリットやデメリットが分かりやすく理解できました。「拠点巡回型」・「派遣型」・「指定校配置型」それぞれの配置で、学校側のSSWの存在感や認識、支援の進め方も変わってくると思うので、それぞれの特性にあわせて適切な行動すべきかをまず自分自身がしっかり理解しなければなりませんと思いました。

指定校配置型の事例問題については、SSWの1日の動きを実際に考え、グループで共有しました。なかなか聞くことができない、現場で働かれている先輩方の色々な意見を聞くことができ、貴重な時間となりました。中でも、1つの事例に対してそれぞれの異なる意見を聞くことができ、様々な気づきや動きがあることを知り大変勉強になりました。

また、支援を行うにあたり、限られた少ない時間の中で、SSWが「積極的」に関係者や関係機関に働きかけ、情報を引き出し、気づき、提案する、ということが参加者からの意見で共通しており、重要なポイントだと感じました。子どもへの最善の支援のため、学校やSSW、地域、その他機関の機能分担をうまく調整しなければなりませんと思いました。限られた勤務時間の中でよりよい支援を行うために、何ができるのかを優先順位をつけることが重要であると感じました。現場でのケースは一つ一つ違うので、迅速な判断で臨機応変に対応できるように、積極的に勉強し、また本日の研修で学んだことを今後に活かしながら現場で頑張りたいと思いました。研修に参加させていただくことで、自分自身の意欲の向上につながり、大変有意義な時間となりました。今日は、貴重な時間を本当にありがとうございました。

正会員 渡邊 夢



拠点巡回型 指定校配置型 派遣型

型SSWのとある1日について想像しよう



SENMON

「ケースを的確にアセスメントしている人のレポートはわかりやすく、ケース会議等での検討もスムーズに進む」ということに異論を唱える人は少ないと思いますが、その前提となる「情報と記録」について、今回は、様々なパリエーションでの模擬面接、ロール演習で学び考える機会を奪って頂きました。

面接のときのメモの取り方についての学びから始まり、実際の面接場面を設定し、グループで個人メモの見せ合いを行いました。実際に三様で、同じ場面で同じことを聞いたのに、聞き取ったこと、人間関係、事実関係の捉え方等々、その分量までも様々、それぞれのSSWの個性が出ていて興味深かったです。聞き取った記録の内容を精査していくというワークでは、雑多な記録の中には主観的なものと客観的なものがあり、区別しなければなりません。あちまへのことですが、今まであまり意識してなかったことに気づかされました。SSWの見立てによって、情報の捉え方が異なるという

ことも多々あり、グループ内の意見交換が盛り上がりました。

更に、項目別（時間、場所、出来事、所見等）に分けられ、面接記録シートを用いて記録をとるといった試みも体験しました。これは項目別に書き込むことを意識しすぎて大事なポイントを見逃してしまいう傾向がグループ全員に見られました。面接時の記録のツールはシンプルなものに限るようです。

面接の場では、限られた時間にも少しでも多くの情報を聞き出すことはもちろんのことですが、その情報の精査、さらにその内容を掘り下げていくテクニク等を身につけることの必要性を、改めて意識できました。90分間の演習であつたと思います。私的には久しぶりに集中力を使いちょっと疲れましたが、グループワークの中で自分の思い込み等も気づかされ有意義な時間を過ごせました。早速明日からの実践に役立てていきたいです。

正会員 古賀 勝子





KISO

前半の「障がい者居住サポートセンター」については、なんとなくでしか認識していませんでしたが、具体的なエピソードがあり業務内容のイメージがしやすかったです。一言で「居住サポート」といっても単純に「家を紹介して契約の際に支援する」というものではなく、引っ越しの段階から始まり、生活が始まってからも24時間体制で様々なサポートを行っていくとのことでした。その業務は多岐にわたり、苦勞もたくさんあったかと思いますが、それを含めて明るく話されていて、なんでもこちらまで勇気が湧いてきました。普段支援を行う際には「衣・食・住」のうち衣と食の目が向きがちですが、ある意味生活の基盤ともいえる住の部分の安定がいかほど日常生活に影響を与えるか、という点を改めて考えさせられました。

後半は「精神科ソーシャルワーカー」のお話でした。連携させてもらう機会は何度かあったのですが、どのような状況で、どんな思いで働いておられるのかが垣間見られてよかったです。病院というところはどうしても内部の事情や様子がみえにくく、正直に言って初めて連携する際には他の機関よりも緊張します。しかし、お話をききながらこちらでも悩みや葛藤のなかで働いていると分かり、親近感を感じました。必要以上の緊張はやめようと思いました。

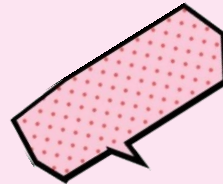
連携というのは普段何気なく使っている言葉ですが、「何の目的で」「何をしてほしい」「そのために自分や学校が何をやるか」このあたりが曖昧だと支援内容がぼやけたりもなってしまう。そうならないための予防線の一つとして、きちんと連携先のことを知っておく必要があります。お二人の話から、機関のイメージや先入観から敬遠したりせずに自分からつながりを求め、そこで働いている人を知ろうとすることが大切だと学びました。それこそが机上だけではない生き方知識になるのだと思います。

2016年4月研修会

2016.04.09

クローバープラザ

Shonin



テーマ：「座談会
～初任者スクールソーシャルワーカーの動き～」
ファシリテーター：
横山 明希
福岡市教育委員会 スクールソーシャルワーカー

Tokubetsu



テーマ：「実践報告～それぞれの良いところから学ぼう～」
報告者：中田 真知子
田川市教育委員会 スクールソーシャルワーカー
高村 妃登美
糸島市教育委員会 スクールソーシャルワーカー
コーディネーター：
池田 敏
添田町教育委員会 スクールソーシャルワーカー

Kiso



テーマ：「スクールソーシャルワーカーに期待すること
～教育現場の声～」
講師：速入 哲司
福岡市立城原小学校 校長



座談会



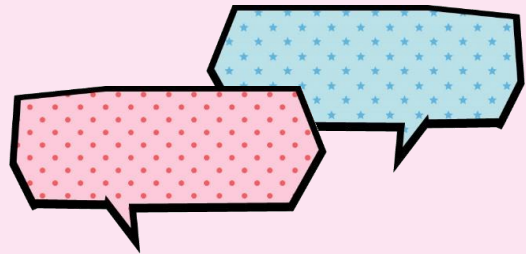
SHONIN

緊張と不安の中で4月を迎え、戸惑いながら一週間が経ったところで、今回、初任者研修を受けさせていただいて、ここから始めればよいが、何を準備しておけばよいかなど具体的な見通しを立てることが出来ませんでした。事前準備として、地域を知ることや委員会の体制を把握すること、SSWに求められるものを支えることや学校を知ること、それらの情報収集の仕方についても様々な方法を教えていただき、自身の環境に照らし合わせながら考えることが出来ました。

後半のグループワークでは、気付くことの出来なかつた視点や情報を得るための目的・手段など、様々な意見を聞かせていただき、自身の視野をもっと広げていかなければならないことや、情報を適切に得るための技術を磨いていかなければならないことを改めて感じました。

これまで現場で毎日子どもたちと関わってきたので、そこを離れ、新たな場所から子どもたちをサポートしていくことに不安の方が勝っていました。今回の研修を受け、同じ志を持つ仲間間の存在を感じられたことは、とても心強いものでした。また、なぜSSWを目指すようになったのか、不安と緊張の中で薄らいでいた原点に改めて立ち返ることが出来たように思います。これからは学びを深め、子どもたちの笑顔のためにがんばっていきたいと思います。

正会員 井上 由紀



TOKUBETSU

今回の特別研修は、「実践報告～それぞれの良いところから学ぼう～」というテーマで、コーディネーターの方の導入から始まり、実践報告として、糸島市の高村さん、田川市の中田さんの2名のSSWからの報告を聞かせていただきました。糸島市の高村さんは実際に関わったケースの中で、どのように他機関と連携を行ったかが分かりやすく説明されており、田川市の中田さんは市の支援体制という大きな範囲の中で、SSWとしての関わりをケースに沿って報告されていました。どちらも普段の業務に直結した報告で、その中でも関係機関、市町村内の支援体制については悩みの多い部分であったため、SSWとしてお二人がどのよう

に町の支援体制に働きかけを行ったかを聞くことができ、自分の実践に活かすヒントが得られたと思います。私は普段は小さな町の中で仕事をしているため、他の市町村がどのような形で支援を行っているかを知る機会は少ないですが、今回お二人の話を知り、隣の市であってもそれぞれの支援体制は大きく違うことがより具体的にイメージできました。これから町に戻り実践を行う中で、他の町の良いところを見習い、自分の町の良いところを活かせるような働きかけをしていきたいと思います。

正会員 古賀 幸広



SHONIN

Strength
Strength





KISO

今回の基礎研修は、演習や講話を通じて学校とSSWの連携等に関して再認識する非常に良い機会となりました。

その中で、SSWと学校の効果的な連携のためにはお互いをよく理解し合う事が何より必要不可欠であり、SSWは学校の経営方針や相手が目指す方向・ベクトルをよく理解し支援方法や対応の策定をする必要があると実感しました。例えば、触れ合う楽しさに重点を置いている学校に対しては「人との出会いや心の通じ合いの体験」を中心に、学ぶ楽しさに重点を置いているのであれば「学習意欲の向上や生活体験」を中心に行う等、各々のベクトルに合わせて支援・関わりがSSWに求められるのぞと学びました。支援を行うには、その相手が求めている事は何かを知る事がいかに必要で重要かを再認識出来ました。

また講話の中で「楽しさを味わっている子どもを見て“自分も嬉しい”と感じて表現する大人のモデルになる」という部分があり、最も印象深く心に残りました。SSWの業務は、支援するだけではなく子どもたちの心の成長や学習に多大な影響を与える事にもなるのぞと気付きました。今年度よりSSWとなり日々手探り状態の毎日ですが、今後もこのような研修を積極的に受講し自分自身その様なSSWを目指したいと強く実感しました。

正会員 庄山 春香



2016年6月研修会

2016.06.04

北九州市立大学
北方キャンパス

Yousei



テーマ：「学校ソーシャルワーク概論」
講師：門田 光司
福岡県スクールソーシャルワーカー協会 会長
久留米大学文学部社会福祉学科 教授

Senmon



テーマ：「家族システムズ・アプローチを用いた
学校ソーシャルワーク実践～前編～」
講師：奥村 賢一
福岡県スクールソーシャルワーカー協会 副会長
福岡県立大学人間社会学部社会福祉学科 准教授

Kiso



テーマ：「情報収集に関する研修」
講師：寺田 千栄子
北九州市立大学基盤教育センター地域創生学群 講師

YOUSEI

今回、初めて熊本から養成研修に参加させていただきまして、4月に起きた熊本地震後は、心身の疲労に併せ、「SSWって何のためにいるのか」「私の役割って何だろう」と、職務とアイデンティティの揺らぎの中におりました。なんどか気持ちが上がりきらないまま、エイッと福岡へ参りましたが、このタイミングで門田先生の「学校ソーシャルワーク概論」を受講して、SSWとして原点回帰の機会となりました。そして、気持ちを新たに頑張れるパワーをもらったように感じます。

研修では、学校ソーシャルワークの起源であるアメリカの貧困と教育の問題を背景に、日本の子どもの置かれている現状を知りました。貧困による格差問題と連鎖、一人親世帯の増加、児童虐待問題という中で、教育保障・学習保障をしていくSSWの立ち位置を再確認できました。この点で、今の自分が子どもの状況を改善するためのソーシャルワークをここまで出来てい

るか、ミクロ・メゾ・マクロの視点で動いているかを振り返りました。

先日、熊本のSSW勢でも話し合ったことですが、収入による格差をどう福祉で支えるかはもちろんのこと、貧困状態により子どもも家庭も将来への希望が持てない「心の貧困」に繋がらないようにすることが大切だと感じています。子どもたちが将来への希望をもつことが出来るように、私たちSSWが希望を失わず関わっていきたいと思えました。

また、冒頭で門田先生からの「経験だけで動くワーカーではなく、理論もきちんと持つことが必要。そのために研修の意義がある」という言葉には、内応ドキッとした所もありました。SSWの世界に入って3年目となり、学校現場への慣れも出てきたところですが、これが漫然とした業務消化にならないようにしたいです。今後も理論と実践を柱に研鑽し続けたいと思えます。

準会員 本田 翔子

I am a school social worker !!



System System System



SENMON

今回、専門研修では奥村先生による「家族システムズ・アプローチを用いた学校ソーシャルワーク実践」というテーマで、システム理論を基盤としてSSWが家庭や学校、関係機関に対して支援・介入を行う際に必要な視点を学ぶことができました。

はじめに「家族システムズ・アプローチ」と聞き心理療法を想起していましたが、「家族や学校、関係機関をシステムととらえること」「相互作用と相互作用はどのような相違があるのか」「開放性と閉鎖性システムはどのような違いがあるのか。実際にはどんな場面に存在するか」を最初に押さえることにより、システムととらえ方がとらえやすくなったと感じました。それにより、SSWが実践を行う家族や学校が一概に同じではなく異なっていること、また、それぞれのシステムが開放的なシステムである場合、また閉鎖的なシステムである場合にはどのような対応を取る必要があるかが明確になったと思います。これらはSSW

が実践を行うなかでも常に念頭においておかなければならないと考えました。

次に「一般システム理論」「自己組織化論」について確認し、それぞれの良い点と留意する点について学習しました。私のなかでは、自己組織化論（動的非平衡システム）は「揺らがり」ととらえました。普段、実践を行うなかで「一般システム理論」「自己組織化論」をそれぞれ無意識に上手く活用していると感じ相互作用と相互作用はどのような相違があるのか」「開放性と閉鎖性システムはどのような違いがあるのか。実際にはどんな場面に存在するか」を最初に押さえることにより、システムととらえ方がとらえやすくなったと感じました。それにより、SSWが実践を行う家族や学校が一概に同じではなく異なっていること、また、それぞれのシステムが開放的なシステムである場合、また閉鎖的なシステムである場合にはどのような対応を取る必要があるかが明確になったと思います。これらはSSW

正会員 野中 勝治



KISO

今回、初めて福岡県SSW協会の基礎研修に参加させていただきました。「SSWが行うべき情報収集」について様々な方とワールドカフェ方式で意見交換をすることができました。大学で情報収集をする演習があり、その際にはSSWが持っている情報をどこまで提示していいのかかわからず多くのことを話してしまい、相手役になぜその情報を持っているのかと問い詰められることがありました。SSWの方にはこの出来事を話すと、その情報を提示することが「子どもの利益」になるかを考える必要があるとおっしゃっており、SSWは子どもの利益を最優先しなければならぬというのを改めて考える機会となりました。また、自分がすでに持っている情報でも本人の口から聞けるようにしていると言われていて、場の雰囲気づくりやそれまでの関係づくり、相手との駆け引きも大切だと再確認できました。

情報収集する際は常に5W1Hを意識しておかなければならず、目的意識を明確にすることが大切だと学びました。大学の演習でこの情報もとらずに聞いておこうと思うことが多かったのですが今後は5W1Hを考え、必要最低限の情報収集ができるよう練習していこうと思います。また、実際に現場に出たときに関わる人や機関はさまざまであり、価値観や考え方も違うということ念頭に置いて集団守秘義務の中身の合意形成をしなければならぬと学び、多くの人と関わりまざまな考え方を知っておく必要があると感じました。SSWにとって情報収集は重要なことではあるけれど、目的を明確にしておかないと支援に大きな影響が出る可能性があり、情報収集の難しさを改めて痛感しました。様々な方と意見交換をすることで自分の視野が広がり、とても有意義な時間となりました。今後も研修に参加し、SSWについて理解を深めていきたいと思っています。ありがとうございました。

学生会員 飯盛 友紀



会長、台湾学校社会工師協同大会に行く！



4月に突然、国立台湾大学の林萬億教授(台湾学校社会工師協同大会会長)よりメールをいただいた。8月20日(土)に、台湾学校社会工師協同主催で台湾・日本・韓国による「台湾と東アジアにおけるスクールソーシャルワーカーの国際シンポジウム」を開催するので、シンポジストとして日本の動向を話してほしいとのことであった。台湾にはまだ行ったこともないし、また台湾のスクールソーシャルワーカー(以下、SSW)の状況を知るとても良い機会をいただいたと思いい、すぐに承諾の返信をした。

いよいよ待ちに待った8月18日(木)。寂しく一人で福岡国際空港を13時ごろに飛び立ち、2時間後、台湾桃園国際空港に着。空港では、中国文化大学の廖明鈺准教授(台湾SSW)とご主人が迎えにきてくださった。空港から自家用車で台北市内に行き、まずは観光で「台北101」のスカイラウンジで台北市内を眺望した。そのあと、1階にある鼎泰豊(ディンタイフォン)で小籠包をごちそうになった(後で分かったのだが、博多駅にある博多阪急にもこの店が入っていた)。本当においしかった！

翌日、8月19日(金)の午前中は自由時間だったので、一人で地下鉄を乗り継ぎ「故宮博物院」に行った。たっぷり2時間、見事な歴史遺産を堪能した。午後から国立台湾大学で2時間のミニシンポジウムがあった。韓国側から40分、日本は私が40分、残りの時間を参加した台湾のSSWや院生たちによる質疑応答で時間過ぎた。韓国からは韓国学校社会福祉士協会の会長及び国際委員会委員長、韓国で最初のSSWである尹喆洙教授が発表された。韓国の協会役職者は2年毎に替わられるので、今回は初めてお会いした。しかし、尹教授とは以前韓国のSSW調査でソウルに行った際、お会いしたことがあったので、久しぶりの再会であった。また、その後の歓迎の夕食会では、4名ほどの韓国の協会メンバーが来ており、その一人は前会長(福岡市にも来福された)のJeon氏で同じく久しぶりの再会であった。

いよいよ8月20日(土)、午前中にシンポジウムが開催された。韓国から3名が韓国のSSWの発展経緯や現状について、続いて私が日本の学校の現状とSSWの発展経緯と課題について報告した。その後、台湾のSSWたちの活発な質疑応答がなされた。昼食時では、韓国や台湾のメンバーたちとの楽しい歓談がなされた。SSWの研究をしていたこと、午後からは台湾のSSWたちによる実践発表が7つ行われた。中国語のため自由時間となった。外の気温は35℃程度で湿気が凄く、汗がすぐにはたり落ちる状況だったが、以前、テレビで台湾の温泉特集をしていたので、ぜひ行ってみようと思いい、廖教授に尋ねると、ここから地下鉄で40分程度で行けるとのことだったので、またまた一人でいざ！温泉に向かった。駅につくと大変な人だかりで祭りかと思ったが、Pokémon GO 台湾は8月4日配信)の人だかりであった。「水美温泉会館」でしたたる汗を流し、廖教授が18時に懇親会を開いていただけたとのことなので、地下鉄に乗り、待ち合わせの台北駅北2の出口に向かった。「灶(MU)」という居酒屋で5名の台湾のチーフSSWの方々が参加され、あつと言ふ間の本当に楽しい時間であった。このとき、彼らが台湾のSSWの活動動画を作り、YouTubeで公開しているとのこと、それを見せてもらった。題名は「探索学校社会工師」である。生徒がいなくなり探し回る設定であった。台湾のチーフSSWたちと活動について話していると、本当に私たちが福岡のSSWの活動と類似していた。私のいつもの調子で、ぜひ台湾のSSWと福岡のSSWの交流の輪を今後とも深めよう日本に戻り、林教授からお礼のメールが届いた。その内容には、台湾のSSWたちが福岡訪問を計画していると書いてあった。実現したらいいな。

台湾・韓国のSSWとの合同写真

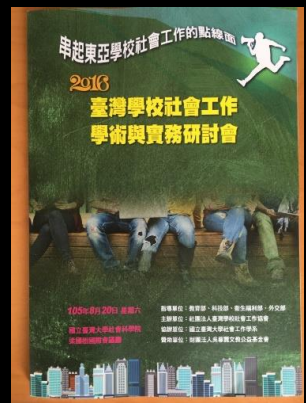


台北101

Taiwan



林教授からの感謝状授与



韓国のSSW研究者たちと



お待ちかねの
小籠包



故宫博物院

台北市内9區
大一一六ノ一ノ一



台湾のチーフSSWたちと

新しい運営委員が加わりました。

NEW!

平成28年7月に行われた、福岡県スクールソーシャルワーカー協会の年次総会にて、新しい運営委員会メンバー（広報担当）が承認されましたので紹介いたします！

New Face

Fukushima Misa

福嶋美紗



Profile



出身地：島根県松江市
年齢：25歳
趣味：バスケット、読書

広報を通してみんなの笑顔と想いを繋げたいです！

所属：福岡市教育委員会、太宰府市教育委員会

福嶋さんの今後の意気込みやQ&A、胸に秘めている四文字熟語を聞いてみました！！

FIGHT
FIGHT



Q2. 私のストレングスは…？

A 持久力！

Q1. 私の思うSSWの魅力とは？

A いろいろな人との出会い。

Q3. SSWとして大切にしていることは？

A 相手の強みに目を向けること。

HELLO!

ひとりひとりの出会いを大切に
一期一会



まっすぐな心で精一杯がんばります
誠心誠意

HELLO! /

Profile

出身地：福岡県福岡市
年齢：28歳
趣味：バンド活動

New Face

Ueno Kenta

上野健太



所属：福岡市教育委員会、大野城市教育委員会

上野さんの今後の意気込みやQ&A、胸に秘めている四文字熟語を聞いてみました！！

Q1. 私の思うSSWの魅力とは？

A “沢山のひととの出会いがあること”

Q3. SSWとして大切にしていることは？

A “一人の人間として向き合うこと”

Q2. 私のストレングスは…？

A “味方感の放出!!”

SSWをもっと身近に感じられるような広報誌を作りたいです！

HEY!! /



庄山 春香

Haruka Shoyama

大刀洗町教育委員会 スクールソーシャルワーカー



はじめまして。今年度(平成28年度)より大刀洗町でスクールソーシャルワーカー(以下、SSW)をしております。庄山春香と申します。大刀洗町は、今年度より常勤のSSWを採用しており、私は現在教育委員会に在籍しております。SSW1年目で、このPiecesに掲載していただけることになり緊張していますが、少しお話しできたらと思います。

私がSSWの存在を知ったのは、大学2年生の時でした。福祉分野に進む前は、教師や保育士など子どもに関わる仕事に憧れを持っていただけもあり、SSWという職種を知った時"将来私はこの仕事に就くだろうな"、ふとそう思いました。その思いが叶って、私はこの4月からSSWとなり、執筆している現在は9月中旬です。SSWになり半年が経とうとしています。

1年目かつ1人職場で、知識不足や経験不足で悩むこと・落ち込むことは多々あります。しかし、学校の先生方との関わりや教育委員会の方々の支え、研修会での学び、SSWの方々との繋がり、そして何より子どもたちの笑顔が私にとって大きな力になっています。また、自信を失っている時や落ち込んだ時、いつも"3年後必ずSSWで在りたいのか"を必ず考えるようにしています。

SSWとしても、人としてもまだまだ未熟な私ですが、逆にまだまだのびしろや可能性があるのだと捉えています。子どもたちを中心に、人々との関わりを大切に、経験を積み、知識を身につけ、向上心を持ち、感謝の気持ちを忘れず、今後も少しずつ成長していきます。そしていつか「この町のSSWがあなただけ良かった」と言ってもらえるようなSSWになります。

FASSWより：協会情報は、ホームページとFacebookにも掲載しております！！

ホームページ fassw-2012.jp

Facebook 「福岡県スクールソーシャルワーカー協会」

研修委員会より：次回の研修会は、12月10日(土)です。詳細はメーリング等にてご案内します。ご参加お待ちしております。

広報委員会より：広報委員会では年3回広報誌を配信しております！
次号も乞うご期待！！

発行責任者： 奥村 賢一

編集担当： 広報委員会 蒲池 恵 福嶋 美紗 上野 健太 渡邊 夢(協力員)

お問い合わせ

福岡県スクールソーシャルワーカー協会 事務局

〒804-8550

北九州市戸畑区仙水町1-1

九州工業大学 学生総合支援室(担当：下田)

TEL:093-884-3726 / FAX:093-884-3726

